自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム奄美
（ユニット名）	1F
所在地 （県・市町村名）	静岡県沼津市本郷町38－6
記入者名 （管理者）	鶴原　玉紀
記入日	平成　19年　12月　13日

セリオコーポレーション有限会社　アスク事業部

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念はスタッフから意見を出してもらい、提供できるサービス、利用者個々の生活文化、習慣、価値観、を重視できるようなサービス提供を元に現場独自の理念を作りあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、スタッフ全員で、理念を読み上げ常に念頭において仕事に取り組んでいけるよう努力している。また、参考書籍を毎日読み、感想を述べるなどして、職員の意識改革が出来ればよいと朗読を行い参考にしている。		新人オリエンテーション時には、理念を噛み砕いて説明するようにしている。参考書籍「痴呆大逆転」
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内各所に理念を掲示している。運営推進会議などでも地域、家族に向け理念の説明を行っている。	○	運営推進会議のお知らせなどに、理念を掲載していきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣への挨拶、散歩、清掃等で近所の方とも交流を持っている。地域保育園の散歩時、立ち寄っていただくこともある。また、立ち寄っていただくように声をかけていくことも行っている。	○	今以上に地域資源が利用できるよう、働きかけていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域清掃、防災訓練には、可能な限り入居者も一緒に参加している。地域行事、祭典や、中学校の文化祭など出かける機会を作っている。		校区内中学校との交流により、行事に招待していただく機会も増えている。また、学生の体験学習も受け入れ良い交流が保てるようになってきた。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などの際には、介護相談、災害時の施設利用が可能なことを説明している。	○	運営推進会議では、日々の介護相談にのるなど説明している。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価実施後には、スタッフへの評価の伝達、改善事項を説明し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告、改善事項への取り組みを踏まえ報告し、参加者からの意見も取り入れている。	○	運営推進会議では事故、ヒヤリハットの報告、入退居状況、要介護度の移り変わりも含め施設内で起きていることも報告している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で開催される会議、包括支援センターなどで開催される会議、研修会にも参加し意見交換、資質向上の場となっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方もいます。入居の時点で利用されて入居に当たるため検討の必要性があるかたが現在はおりません。	○	スタッフへの周知としてミーティングや社内研修で取り入れていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングでの研修内容で取り入れ具体的にどのようなことが虐待なのかなど話し合っている。	○	自施設内におけることだけでなく、社会的に起きている内容なども伝えている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書に添って説明しています。その他、ご家族、ご本人からの質問等に答えている。解約時にも書面をもって解約の手続きを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。市の介護相談員の来所により話を聞いていただく機会も設けている。日常会話により介護スタッフやリーダー、管理者が聞きだしたり、訴えを聞く場面がある。	○	苦情、相談についての記入書式があり、記録に残し改善、向上に努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真入のお便りを出し利用者の生活面、活動報告、状況報告を行っている。面会時に近況報告。必要時、特変時には早急に電話報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談窓口の記載をされている。意見箱の設置。運営推進会議でのご意見を述べていただく機会を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による個別面談の実施。月2回のミーティング、毎日の申し送り時などでも意見や提案が出来る状況を作っている。	○	管理者との面談結果について運営者へ報告を行っている。面談時には事前にアンケートを記入してもらい記入内容に添って、面談を実施している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全体外出など日常より危険が予測される場合には、日勤者を増やすなどし、対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者がなるべく出ないように勤務形態、面談による個々のスタッフの状況把握に努めるようにしている。職員の移動についての頻度は少なくなっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じ社外研修への参加を実施。社内での研修では、スタッフのレベルに合った内容で毎月研修を行っている。	○	グループ全体にアンケートを取り、受講したい研修内容を聞き出し、意見集約により、社内研修を実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの会議などで、他のグループホームスタッフとの交流を図り、意見交換、情報収集を行っている。施設見学や、使用書式などの情報提供をし、互いの向上ができている。	○	同グループ内での見学や、社内研修にて学ぶ機会、意見交換、情報交換ができている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が個別に面談を行い、スタッフの意見、不満、考えを考慮し改善できるような場面を設け、運営者に報告するシステムを取っている。個々の状況に応じ勤務できるよう希望に対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの努力、実績については、管理者から運営者に報告し、把握できる状況にある。毎月の勤務表は運営者も確認をしている。年に2回会社より個人評価表をもとに評価が行われる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には可能な限りご本人と面談を行っている。個別に対応し状況に応じ話を聞く機会を日常的に行っている。希望には可能な限り早急に答えることが出来るよう援助している。	○	センター方式を取り入れ担当者、リーダー、管理者で本人の思いを聞き出し記入。サービスに取り入れている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、ご家族の施設見学をしていただきホームの主旨、ハード面などみていただいた上で、面談をし、ご家族の思いを受け止め、意向も伺うようにしている。利用後も面会、電話などでご家族と話しをする機会を多くしている。	○	施設利用にあたり、不安や疑問がないようにご家族とは、時間をかけて話を聞くよう心がけている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容、ご本人の状況を踏まえ、当グループホームが適切であるか、他のサービス利用が適切か話をさせていただき、運営者とも相談している。	○	相談受付用紙に記入し会社にも報告。管理者独自の判断のみではなく、上司、ケアマネージャーとも検討していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活環境の変化を最小限に抑える為、自宅の自室と同じような部屋作りに協力していただいている。なじみの物の持ち込み、生活習慣を継続していただけるよう援助を心がけている。	○	センター方式を取り入れ長年のなじみの生活を事前にスタッフが把握する。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体に考え意向を伺うこと、共に家事などで利用者が活躍できる場面、スタッフに教える場面もあり、生活を共に支えあえる関係作りをしている。人生の先輩から頂く生活の知恵など日常的にある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の状況を面会時、電話連絡、お便り等で報告することでご家族にも伝わり、また、家族会や行事に参加していただくことでより、他のご家族や利用者とも会話が弾んでいる様子が伺える。	○	ご利用者のご家族に対する思いなどもそのつど伝えていくことで施設に協力的になってきている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時面談により、ご家族との関係を聞き取れる範囲で聞いている。ご家族との会話の中から情報を聞き知りえることもある。認知症という病気を抱え家庭での介護のストレスがなくなることで、入居により良い関係が保てるようになるケースもある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バースデイ企画（誕生日）などでは本人の希望を聞き自宅や、娘さんの嫁ぎ先に行きご家族に会いに行く企画などたてている。全て個別の対応であり職員と1：1で対応している。	○	お彼岸には墓参りに行きたいと希望された方もいて、お墓参りにスタッフと出かけている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個人の時間も持っていただく中で、お茶、おやつ、食事の時間などには、食堂やフロアーで談話していただく時間を作っている。人間関係に配慮し座席位置など配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ継続的な関わりを必要とするケースはありませんでした。ご家族から連絡をいただいた場合などは退去後の様子を聞くようにしています。	○	今後必要なケースが出てきた場合は取り組みをしていくつもりです。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはご本人の意向を聞きケアプランに載せている。担当者を決め、利用者との関わりにより意向の把握に努めるよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し把握に努めている。入居前のサービス事業所からの情報提供をしてもらっている。	○	入居後も利用者との会話、家族との会話により情報の引き出し、共有につとめている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕日々の申し送り、また、申し送りノートの活用、ワーカー日誌、看護日誌、フロアー会議等での情報把握に努めている。	○	申し送り内容確認後必ずサインをしている。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーによる本人、家族の意向を聞いた上で、のケアプラン作成。担当者、介護者、医者、看護士との連携により介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	行っている。カンファレンス時の検討や、家族への相談、状況報告を状況変化により、介護計画のみならず、日常のケアに変化に応じて対応している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ記入している。ケアプランの内容が実践につながるように、ケアプラン実施の記入は色を変え個人記録に記入するようにしている。	○	他施設との交流により記録方法を学んだ。今後も他施設との情報交換を行っていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行っている。基本的に病院受診は家族対応をお願いしているが、家族や本人の状況に応じ施設側で対応することも行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所に在住するかたが太極拳ボランティアを行っている。中学校との交流により、中学生の体験ボランティア、行事への招待などしていただいている。防災訓練では、消防署に協力を求め指導を受けている。	○	民生委員からのボランティアの紹介もあるため活用していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ他のサービスを必要とする対象者がいないので行っていない。	○	今後必要なケースが出てきた場合は取り組みをしていくつもりです。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ他のサービスを必要とする対象者がいないので行っていない。	○	現在のところ他のサービスを必要とする対象者がいないので行っていない。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけの医療機関の確認、またホームの連携医療機関の紹介をし、本人、家族に説明をしている。体調変化時には速やかに看護士、家族に伝達し医療機関につなげていくよう支援している。	○	月に1度内科、整形外科の医師の往診。毎週歯科との連携を取り口腔内の検診、ブラッシング指導を実施。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個別で認知症の進行状況により、専門医に受診し相談、受診を行っている。	○	適切なケアへのアドバイス、薬の変更など相談できている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制による毎日看護士の巡回により健康管理を行っている。24時間体制で連絡対応可能。	○	訪問時に日々の体調変化を報告。看護士による観察、処置、助言、家族への連絡など行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時訪問し、医師、看護士、ソーシャルワーカーなどから情報提供していただき、病状、メンタル面など考慮し、退院など決めている。	○	病院でのムンテラに家族と共に参加している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の看取りについて、ホームで出来ること、出来ないことも含め家族に説明している。書面にて、終末期の意向を記入していただき、状態変化により再記入していただくようにしている。	○	運営推進会議などでも終末期の看取りについて家族に説明する機会を増やしている。ミーティングでもスタッフ間で話し合う時間も設けている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主が介護スタッフである中、終末期を迎えたかたにどこまで出来るか、出来ないかは家族に説明をしているが、現在までは、終末期を迎えるまでの状態のケースがない。	○	本人、家族の意向で終末期をグループホームで迎える希望がある場合に対応していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の面談、アセスメントを行うことでなじみの生活が継続できるように話し合う時間を設けている。居室の配置、設置物、寝具類などにもなじみの物を持ち込んでいただくようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄や入浴の声かえは他者に聞こえないよう配慮している。個人情報等の書類は専用の本棚に収納している。	○	個人情報の取り扱いについてミーティング等でも伝達指導している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	バースデイ企画では、本人の希望をかなえる日とし、担当スタッフが個別に利用者の意思を聞きだす場面を作っている。毎日のお茶の時間には、その日その飲みたい物を聞き出し提供している。食事についても苦手な食事は他者と内容を変えて提供する事もある。日常の関わりの中でも聞きだす言葉かけをしている。	○	言葉で伝わらない、理解が難しい方にも意思を伝達しやすいようお茶のメニュー表を見せるなどの工夫をしている。外食時なども個々に注文できるように援助している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤のマニュアルは利用者本位の生活を重視できるよう作成していない。その日その時に出た言葉を元に、個別の外出や生活援助が出来るよう配慮している。	○	一人ひとりの発した言葉をキャッチするよう心がけている。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居前のなじみの理美容店を希望される場合は、家族対応で外出していただいている。入居後も理美容業者を変更せずになじみの関係が作れるよう支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。男性、女性問わず、出来ること、得意なことを見極め皆が携われるようにすることで、食事をする楽しみが出来ている。	○	毎日の生活の中で言わずと個々の役割が出来てきている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝のお茶の時間には、個別に好みの飲み物を提供している。酒類については、個々の状態に合わせ提供している。外出時などに酒類を召し上がる方もいる。	○	喫煙については、施設内禁煙のため毎日職員が付き添いの元、屋外で喫煙されている方がいたが、現在は喫煙をやめたため喫煙される方はいません。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄の援助が出来るよう排泄板で記録し排泄パターンの把握に努め、時間での誘導や、尿意、便意があり失禁のある方はパット内の確認をし清潔な状態が保てるように配慮している。	○	健康管理表により、必要に応じ排尿量、回数、排便など管理している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や午後に入浴など決めてはいるが、個々の希望時間に入れるよう本人の希望も聞いている。毎日入浴希望される方にも対応している。	○	夜間混乱し入浴希望がある方もいるが、夜勤者が対応可能な時には夜中でも入浴を行うこともある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝、消灯時間などは決めていない。個々のペースに合わせ就寝している。不眠時は職員と話をしたりし過ごし、落ち着いてから休んでいただいている。室温調節、布団などの掛け物にも配慮している。午後からの強い光の刺激を避けるようにレースのカーテンを引く配慮をしている。	○	アロマによる安眠作用を試みているケースもある。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、農園、手芸、調理など生活歴、職歴などを考慮し、活躍できる場面を見つけている。日常の家事を行うことで役割、生きがいを見つけているかたもいる。	○	手紙をポストに出しに行き、手紙が届くやり取りを継続し楽しむ方、近所の和菓子屋に出かけ好みの菓子を購入される方など個別の楽しみを継続している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じ金銭管理を家族了解のもとで行っている。金銭管理が困難な方については、施設で立替え金を預かり、買い物していただいている。レジでは個人で支払いしていただくよう見守り援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物は頻繁に外出している。外出、買い物希望時にも速やかに対応できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回程は全員での外出を計画し楽しんでいる。バースデイ企画などで希望をかなえる為、個々の希望をかなえることが出来る。1年に1度1泊温泉旅行に全員で出かけている。（家族も参加できる）	○	自宅への外出、外泊はご家族の協力を頂いている。公共の福祉へのサービスを利用し、サーカスなど見学に出かけている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す習慣のある方にはスタッフ同行で葉書を購入したり、ポストに出しに出かけている。電話希望者にはそのつど希望時に利用していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特別設けず、いつでも来所していただけるようにしている。またいらしていただけるように、お帰りの際には声をかけている。	○	面会者、利用者の希望にもよるが、各居室にてくつろいでいただけるようにご案内している。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで学んでいる。拘束のない生活援助をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関においては、建物の構造上自動ロックがかかってしまうが、外出希望時には開錠している。	○	外出願望の強い利用者がおり、ケアーの方法を検討しているが、センサー等は安全確保のためとりつけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフの配置、移動時の所在確認、スタッフ間の連携をとり所在の把握、夜間は定時、プラス状況に応じてのラウンドで安全に生活出来るよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや刃物については安全管理日誌に基づき朝、夕の申し送りで管理し、保管場所も扉のついた収納場所へ保管している。利用者の必要に応じて職員見守りの元、自由に使用していただいている。	○	洗剤類なども利用者が使用する際には、職員見守りのもと使用していただいている。保管は扉のついた収納庫へ保管したり、戸棚の上など工夫している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内ミーティングや、社内研修の際、看護士から指導を受け学んでいる。緊急時対応マニュアルの熟読。ヒヤリハット報告等でリスクマネジメントも行っている。	○	火災については、消防署の指導や、独自の防災訓練実施により学んでいる。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故対応マニュアルによりミーティングなどで行っている。予測される事故などは日々の申し送りでも、対応方法を伝達している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を実施している。地域の方には、地域防災訓練への参加や、運営推進会議等で協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	変化時、危険が予測される時など、そのつど、家族に説明をしている。ミーティング時にも対応策を議題に挙げて話し合いをしている。	○	運営推進会議では、施設内で起きているヒヤリハットや、事故報告、リスクマネジメントを伝え、自分の家族に起きている事だけでなく、高齢者、施設内で起こりうるリスクについても説明している。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル計測を実施日々の関わりの中でも観察を行っている。異変時看護士への報告、看護士の観察、指示を仰ぐシステムになっている。日誌や、申し送り簿で全スタッフが把握できる。	○	異変時、リーダー、管理者に報告しバイタル測定、観察し、看護士相談、指示を仰ぐ。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は常に確認できるよう、個人記録ファイルに閉じている。また、変更時は申し送りノートなどに変更内容、追加内容、副作用によるリスクも含め記入し把握に努めている。	○	日常生活において状態観察をし、病院受診時には、薬による変化や、状態の報告を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を健康記録紙に記入し把握できるようにしている。病気による便秘、水分量、食事内容など検討し、必要に応じ水分チェック表を活用している。散歩や体操、腹部のマッサージなども考慮し、支援している。	○	食物繊維の豊富なものなど野菜を多く食事や、おやつで提供するよう心がけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	実施している。自力で行える方にもブラッシング後の確認や、仕上げ磨きを実施。毎週の歯科往診により口腔内の清潔を保っている。	○	歯科往診時には注意事項をノートに記入し、全職員が口腔状態を把握しケアに当たれるようにしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録。必要に応じ水分摂取量をチェックする利用者もいる。1日を通じ、食事やお茶の時間、他で必要水分量が全体で摂取できるよう支援している。	○	食事バランスチェック表の活用。医師との連携により個々の食事、水分摂取量を管理している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルに基づき対応している。利用者、スタッフはもちろん、手洗い、うがいを実施。来訪者にも手洗いうがいをしていただいてから面会していただくようにしている。ミーティングでも感染症について指導を実施。	○	朝、夜間、1日2回は次亜塩素酸による消毒を実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に携わる際には手洗い、消毒を行い、調理器具のアルコールや、ハイター消毒を行っている。食材は、新鮮な食材を少量ずつ購入するようにし、賞味期限にも気をつけている。	○	食材には十分な加熱を心がけている。生物は新鮮なものを提供するようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や、庭には季節の花を植えて明るい雰囲気を出すよう心がけている。クリスマスシーズンには大きなリースを飾るなどし、近所の方との会話のきっかけにもなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内で大きな音を出さないよう、職員の行動や声の大きさに配慮している。午後は夜間の睡眠状態を浴するために強い光が入らないようレースのカーテンを引くように配慮している。掲示物や、置物、季節の花を飾るなど工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に工夫して、個々の利用者にとって居心地のいい場所になるよう配慮している。ソファーなどは、テーブルから離れた位置にあり、ゆったり過ごすことができる。	○	利用者の人間関係に配慮した座席の配置を工夫している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人のなじみの家具や寝具、置物、飾り物など持ってきていただき、自宅と同じような配置においていただくようにしている。	○	居室内の整理は、本人が混乱しないよう職員と一緒に行うようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や日中など窓を開け換気を行っている。季節により外気温、室温の調整をエアコンなど利用し個々の快適な温度で生活できるよう支援している。必要に応じ芳香剤を使用し不快な臭いがないように配慮している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独身寮を改良した建物の為フローリングや、和室など様々な居室になっているが、個々の状態に応じ居室を決めている。廊下など手すりを付けるなどして安全の工夫をしている。イスの形なども個々の状態により違うタイプのイスを使用している。	○	利用者の状態や変化に応じそのつど手すりを付けたり段差の解消に努めるなどしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排泄など、トイレの表示を混乱する対象者が理解できる表示にするなど工夫をしている。清掃、家事なども、スタッフが個々のレベルを見極め混乱、失敗の内容支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにおいては、柵が無い為プランターに花を上危険防止を行い、日光浴や、体操、お茶の時間に活用できるようにしている。花壇や、畑を作り、趣味が継続、収穫の楽しみ、季節の味わいが出来るよう利用している。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

私達スタッフ一同、日々の中で、快の気持ちが持て、言葉に出していただけるよう、その一瞬の思いを大切にケアに当たっています。また、利用者の希望、思いは、本人が忘れてしまわないうちにかなえてあげたいという気持ちで利用者の思いに添って満足感を味わっていただけたらと、実行につなげています。施設に入ったから出来ない、制限があるのではなく、施設での暮らしでもこんなことが出来ると、イメージを取り払いたく１泊温泉旅行を実施し家族との絆を深めていただくと共に、以前できていた当たり前の生活、楽しみの継続の実施を心がけています。バースデイ企画では、普段出来ない１対１の対応で、本人の１年に１度の大切な特別な日と考え、希望をかなてあげたいという気持ちで今年から実施しております。